

私立大学図書館協会東海地区協議会 第1回研究会

## 「行列のできるサイエンスカフェの作り方」

～あなたにもできる集客倍増のテクニック大公開～

### 1. サイエンスカフェとは

- ①起源：1998年 イギリス（科学に対する不信感）
- ②特徴：科学コミュニティの外側に出る $\longleftrightarrow$ 教育・ジャーナリズム（啓蒙活動）  
双方向 $\longleftrightarrow$ 一方的
- ③サイエンスカフェとは飲み物を片手に科学者と直接対話することで、一般市民に科学を身近に感じてもらおうとする試み。市民にとって身近な街中のカフェなどの場所で開催され、講演よりも質疑や討論の時間を多く取り、科学の専門家と一般の参加者がざっくばらんに話をできるように工夫。
- ④日本では：2004年6月『科学技術白書』  
2005年サイエンスカフェ元年  
（科学者の社会貢献、理科離れ対策）
- ⑤開催例：サイエンスカフェ・ポータル <http://cafesci-portal.seesaa.net/>  
サイエンス・ポータル(JST)サイエンスカフェ案内 <http://scienceportal.jp/scicafe/>

### 2. 当館サイエンスカフェの歴史

- ・2006年 1～5回 県立機関活用講座（予算25万、受講料1000円×5回連続）  
1階「やさしい科学コーナー」に関連したテーマ →サイエンスカフェ！  
ポスター120枚、チラシ7000枚、新聞等掲載5件 →応募者は？
- ・2007年 6～9回 当館単独開催（無料）  
継続希望の声あり、予算ゼロ、県研究機関との連携 →リピーター、常時30名集客していたが…
- ・2008年 10～15回 好評により継続、隔月開催  
謝礼予算化、県研究機関にこだわらず講師選定
- ・2009年 16～20回 不定期、5回開催  
応募者多数により、同一テーマで2回開催もあり。延べ7回開催。

### 3. 企画のポイント

#### ①場所

- ・狭くても可。詰めて10人程度しか入らないところから、オープンスペースで100人以上も。

#### ②テーマ&ゲストスピーカー（話題提供者）

- ・新聞、雑誌、書籍などをチェックして日々情報収集あるのみ。他のサイエンスカフェに参加して当りをつけるのは有効。

#### ③司会（ファシリテーター）

- ・「促進する人」といった意味で、参加者から質問、意見などを引き出して、議論を活発化させるのが役割。

#### ④参加者（ターゲット）

- ・普段あまり科学になじみのない人を対象にする。そうした人を惹きつける企画、広報が大切。

#### ⑤コンセプト

- ・1-③のようなスタイルはあるものの、決まりは別になく、主催者によってまちまちなので、自由に設定できる。

#### ⑥雰囲気づくり

- ・気軽に質問や意見が言えるように堅苦しくならない雰囲気づくりが必要。「カフェ」もその仕掛け。

#### ⑦広報

- ・チラシの効果は絶大。ただし…（タイトル、フォント、基礎的情報（地図など）イラスト、）
- ・新聞の情報欄、ミニコミ誌なども取り上げてくれるし、チェックしている人は多い。
- ・1ヵ月半前から開始。抽選締切りは10日前。大人数(100人超)募集の際は先着順の方がよい。
- ・申し込み方法は、ターゲットに合わせて。また、様々な方法を用意した方がよい。

#### ⑧その他

### 4. 図書館のPR効果

- ・アンケートから、認知度評価

第8回まで

第9回以降

	(8)	(9)	(10)	(11)	(12A)	(12P)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17A)	(17P)	(18A)	(18P)	合計
よく利用する	4	7	5	6	5	5	4	7	9	6	7	8	6	8	87
たまに利用する	13	22	15	13	10	16	6	28	32	11	14	16	17	16	229
小計	17	29	20	19	15	21	10	35	41	17	21	24	23	24	224
知っていたが利用したことはない	1	16	8	6	8	9	9	15	16	15	8	14	14	10	149
知らなかった	4	24	4	4	1	9	5	22	8	16	12	13	9	10	141
小計	5	40	12	10	9	18	14	37	24	31	20	27	23	20	200
合計	22	69	32	29	24	39	24	72	65	48	41	51	46	44	424

## 5. 図書館で行う意義（TVK「コンシェルジュかながわ」放送より）

- ・ライブな情報の提供

〈参加者へのインタビュー〉

Q. 図書館でサイエンスカフェのような専門的な話が聞けることについてどう思いますか？

A. 気軽に参加できるし、話を聞いて興味を持った後に、それに関する本を調べたりと、すぐ連携ができる、関係のあることができるという意味では面白いと思います。

A. 自力でいろいろなことを調べるのは手が出しにくいですし、どこに行っても何を聞いたらよいかわからないことはたぶんあると思うのです。そういうことを公的な機関として主催してダイジェスト的にいろいろなことを教えてくれるのは、この後の取っ掛かりにもなると思いますし、そういう意味でとてもありがたいと思います。

〈第13回ゲスト天羽優子さん〉

Q. 今日のようにくつろいだ形で科学の話をされて、なおかつ図書館でこういった話を聞けるというような行事が行われているということについてどうお感じになりますか？

A. 図書館でやるということは、とてもいいことだと思います。図書館は本を集めているわけですし、科学に関する情報が集まっている場所です。そういう場所で説明をするというのは、そこに行けば情報が得られる、そういう場所が図書館だと思います。活字の本があるということと、生の情報（実際に人に会って話を聞けるということ）、両方揃っているのは素晴らしいことだと思います。話を聞くと、その場でわからなくてもわかった気分になるという効果は、本よりは非常に高いと思います。本に入っていくというか、本で系統的に調べるとのことまでの敷居を下げるという効果があると思うので、こういう機会がたくさんあるといいなと思いました。

〈司会者のコメント〉

サイエンスカフェ、いいですね。講演会などで聞いた後わざわざ図書館までに行くというとそのまま忘れてしまったり、興味が途絶えてしまったりしますが、（図書館だと）その場ですぐ調べたりできるので、興味を深めていくこともできますね。

サイエンスカフェは身近でわかりやすく話をしてくれる。その場ですぐ質問ができるので、質疑応答のときも本当に熱がこもっていてすごいんですよ。それでその後また調べものができるでしょう。図書館でやることは有意義だと思います。

### ・開催例

①さばえライブラリーカフェ（友の会・図書館共催、2005年2月～計64回、ほぼ月1回）

②大阪府立中央図書館（主催、予算なし、2008年1月～計11回、不定期）

「ゲストと参加者のみなさまがいっしょに話すこと（会話）によって、理解を深めたり、自分以外の考え方にふれて、あたらしい知識や情報、考え方のヒントを得たりする機会を提供する事業」（ウェブサイトより）

③ほんかふえ（主宰「ほんかふえ・すてっぷ」）

「お勧めの本を語り、社会経済・自然・科学技術、様々な”環境”にちょっと眼を向けたい。ネット情報より面白い？ クチコミュニケーションをめざして、書物の力・言葉の魅力を味わうカフェタイム！」

## 6. 課題、その他

- ・人数規模、内容の充実度

## 7. 行列のできる講座をつくるには

- ◆ まずは企画ありき！ 企画8割、広報2割

①

②

③

### (参考文献) 図書

- (1) 『人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方』 牟田静香 著 (講談社+α新書)  
→講座担当者のバイブル！(「エセナおおた」の「なんちゃってリジチョーブログ」のサイトも)
- (2) 『はじめよう！科学技術コミュニケーション』  
北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット 編著 ナカニシヤ出版 2007年  
→第2部、第11章にサイエンスカフェのノウハウ解説
- (3) 『サイエンスカフェにようこそ！』  
滝澤公子・室伏きみ子 編著 富山房インターナショナル 2009年  
→サロンド富山房のサイエンスカフェの実践記録

### 雑誌論文

- ・『サイエンス・カフェ』の歴史と理念を紐解く」 杉山滋郎 『化学』 2007年2月号
- ・「サイエンスカフェの全国的なとり組み」 福西浩 『パリティ』 2007年 vol.2
- ・「サイエンスカフェーその効用と課題」 長谷川寿一 『学術の動向』 2008年7月号
- ・「サイエンスコミュニケーションと図書館」 長神風二 『情報管理』 vol.51(2008)No.5  
→インターネットサイトからフリーダウンロードできます。
- ・「図書館とサイエンスカフェ」 大久保 『図書館雑誌』 2009年1月号

# サイエンスカフェ 過去の実施状況一覧

回	年度	月日	テーマ	ゲスト	所属	申込数	当選数	参加数	
1	2006	11月18日	日本人の得意技を生かす ～衛星・ロボット・携帯電話～	田中 泰生	(有)リヴィールラボラトリ	5	5	12	県立機関活用講座として 5回実施(定員50名)
2	"	11月25日	超ミクロの世界への旅 ～ナノテクからクオークまで～	山崎 詩郎	東京大学大学院生	10	10	16	
3	"	12月2日	脳の高次機能に迫る ～認知記憶システム～	木村 紘子	東京大学大学院生	24	24	24	
4	"	12月9日	分子でナノマシンはつくれるか	竹沢 悠典	東京大学大学院生	17	17	19	
5	"	12月16日	太陽系外に惑星を探せ!	藤原 英明	東京大学大学院生	30	30	31	
2006合計						86	0	102	
6	2007	6月23日	雷雲からのX線を探せ ～地球環境での高エネルギー現象～	榎戸 輝揚	東京大学大学院生	29	29	31	継続希望の意見が多く、 当館単独事業として実施 (定員30名)
7	"	8月18日	植物生まれのプラスチック・土に還るプラスチック 身近なプラスチックから未来の暮らしを考える～	村上 小枝子	産業技術センター	59	59	39	
8	"	11月10日	アースサイエンスから2つの話題 ～温泉を知ろう、地震を知ろう～	石坂 信之 板寺 一洋	温泉地学研究所	33	33	34	
9	"	3月1日	古代生物の絶滅の謎に迫る ～海から酸素が消えた時代～	石浜 佐栄子	生命の星・地球博物館	106	106	80	
2007合計						227	0	184	
10	2008	4月20日	ニセ科学の見破り方教えます ～波動水からマイナスイオンまで徹底検証～	左巻 健男	法政大学 教授	189	40	34	抽選制開始(定員40名)
11	"	6月1日	かながわの大気環境を読む ～いま私たちにできること!～	飯田 信行	環境科学センター	48	48	36	
12	"	8月30日	第2の地球の探し方 ～あなたの知らない太陽系の向こう側～	藤原 英明	東京大学大学院生	124	100	69	午前・午後2回実施
13	"	10月5日	ニセ科学の見破り方教えますver.2 ～水と健康をめぐるニセ科学にご用心～	天羽 優子	山形大学 准教授	250	40	28	電話受付取り止め
14	"	12月21日	体内時計を調節するメラトニンの秘密 ～体のリズムを整える注目の脳内物質～	服部 淳彦 竹村 真由子	東京医科歯科大学 教授 科学雑誌編集者	143	104	86	定員90名まで拡大
15	"	2月7日	発見者藤嶋さんが語る光触媒のすべて ～光が水を分解する、驚きの技術の秘密～	藤嶋 昭	神奈川科学技術アカデミー 理事長	148	103	81	定員90名まで拡大
2008合計						902	435	334	
16	2009	4月19日	ニセ科学の見破り方教えますver.1.1 ～波動水からマイナスイオンまで徹底検証②～	左巻 健男	法政大学 教授	247	65	50	定員50名まで拡大
17	"	9月5日	月の残された謎 その起源に迫る ～月周回衛星「かぐや」の挑戦～	阪本 成一	JAXA 教授	128	128	99	午前・午後2回実施
18	"	12月13日	世界を変えたダーウインの進化論が生まれるまで ～『種の起源』発表まで20年の軌跡～	渡辺 政隆 竹村 真由子	サイエンスライター 科学雑誌編集者	162	131	97	午前・午後2回実施
19	"	2月21日	ニセ科学の見破り方 ～危ない健康情報を見分けるコツ～	小内 亨	おない内科クリニック院長	204	106	80	定員90名まで拡大
20	"	3月6日	地球のミドリコ教えます ～地形・地質から読み解く地球の魅力～	斎藤 靖二 平田 大二	生命の星・地球博物館	87	87	71	抽選せず
2009合計						828	430	397	
総合計						2043	865	1017	

Before

2007 神奈川県立川崎図書館

# 第3回サイエンスカフェ



サイエンスカフェは、科学者などの専門家を一堂の民が集まり、片手に知識に科学などの話題について語り合うもので、誰か話せばいいからというわけでもない、楽しく楽しいコミュニケーションの場です。

参加するために科学者の知識は必要ありません。科学に詳しくない方も大歓迎です。

イギリスやフランスで始まり、今世界中に広まりつつあるこの、サイエンスカフェ。お茶を飲みながら、リラックスした雰囲気の中で、第一線で活躍する若手研究者と楽しく話し合いながら、サイエンスに関心を持っていただき、科学技術文化にふかかれた図書館で、科学の魅力を伝えてまいりましょう。

日時 / 2007年11月10日(土)13:30~16:00

テーマ / **アースサイエンスから2つの話題**  
**～地震を知ろう、温泉を知ろう～**

ゲストスピーカー / 石坂 信之さん 板寺 一洋さん  
 (神奈川県温泉地学研究所 研究員)

会場 / 神奈川県立川崎図書館 2階ホール

主催者人員：30名 (参加費は無料です)。  
 参加費：中学生以上。  
 申込方法：電話、FAXで、またはHPよりお申し込み。  
 (キャンセルされる場合は必ずご連絡ください)。

本館力：神奈川県立川崎図書館  
 お問い合わせ先：県立川崎図書館 庶務係 電話  
 TEL 044-233-4337  
 FAX 044-210-1146  
 URL <http://www.kazakuradiv.library.pref.kanagawa.jp/>

※ 趣向もご覧ください。




After

サイエンスカフェ 神奈川県立川崎図書館

# 古代生物の絶滅の謎に迫る

## ～海から酸素が消えた時代～



地球上に生物が生まれてから数十億年、陸上の絶滅が数々の絶滅の別を遂にわたつたように、生物を大量絶滅させる大事件が、これまでに何度も起こつたことと分かつています。

今回は、そんな中でも最近注目されている、酸素不足の海が地球上に広がつた大事件「酸素大絶滅」を取り上げます。どうやって研究が進んできたのか？これを大事件は現在も謎に包まれているのが、研究事例を詳しくながら生物の大量絶滅の謎に迫ります。

日時 / 2008年3月1日(土)  
 13時30分～15時30分  
 (前半は講演、後半は質疑・討論の予定)。

ゲストスピーカー / 石浜 佐栄子さん。  
 (生命の星・地球博物館 学芸員)。

会場 / 神奈川県立川崎図書館 (地庫、案内係を要してください)。  
 定員 / 30人 (参加費は無料です。申込方法や定員などをご覧ください)。

問合せ先 / 県立川崎図書館 TEL:044-233-4337  
<http://www.kazakuradiv.library.pref.kanagawa.jp/> TEL:044-233-4337

協力 / 神奈川県立生命の星・地球博物館 (神奈川県小田原市)。

【サイエンスカフェとは?】  
 科学者などの専門家と一般の市民が、片手に知識に科学などの話題について語り合うもので、誰か話せばいいからというわけでもない、楽しく楽しいコミュニケーションの場です。イギリスやフランスで始まり、今世界中に広まりつつあります。

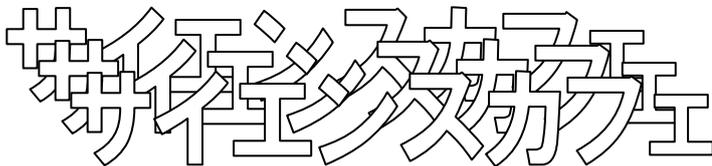


## 【特典1】 袋文字の作り方

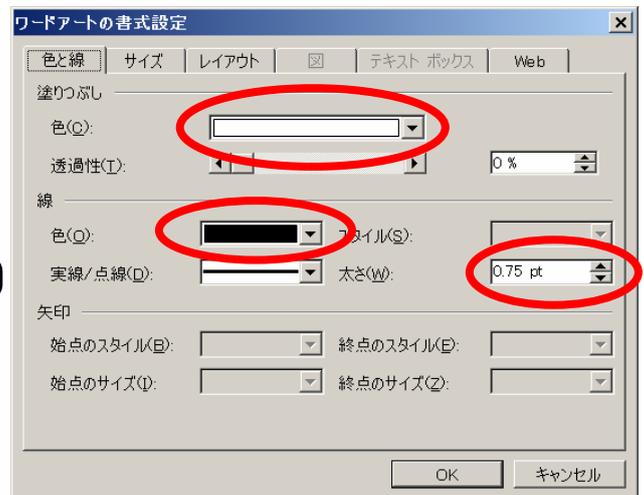
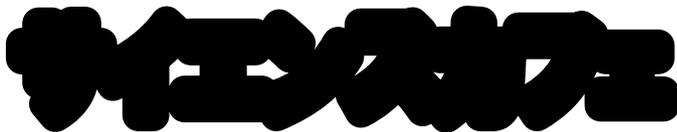
1. ワードアートで文字を打ち、同じものを3つコピーします。



他のスタイルにはしない



2. 一番下の文字を右クリック、書式設定から、塗りつぶし「黒」、線の太さ「12」にします。



3. 2番目の文字を、線の色「白」、線の太さ「6」にして、上で作った文字に重ねます。



4. 一番上の文字を、塗りつぶし「黒」にして重ねて、できあがり！



動かすときにCtrlキーを押しながら矢印キーを押すとミリ単位で移動できます。

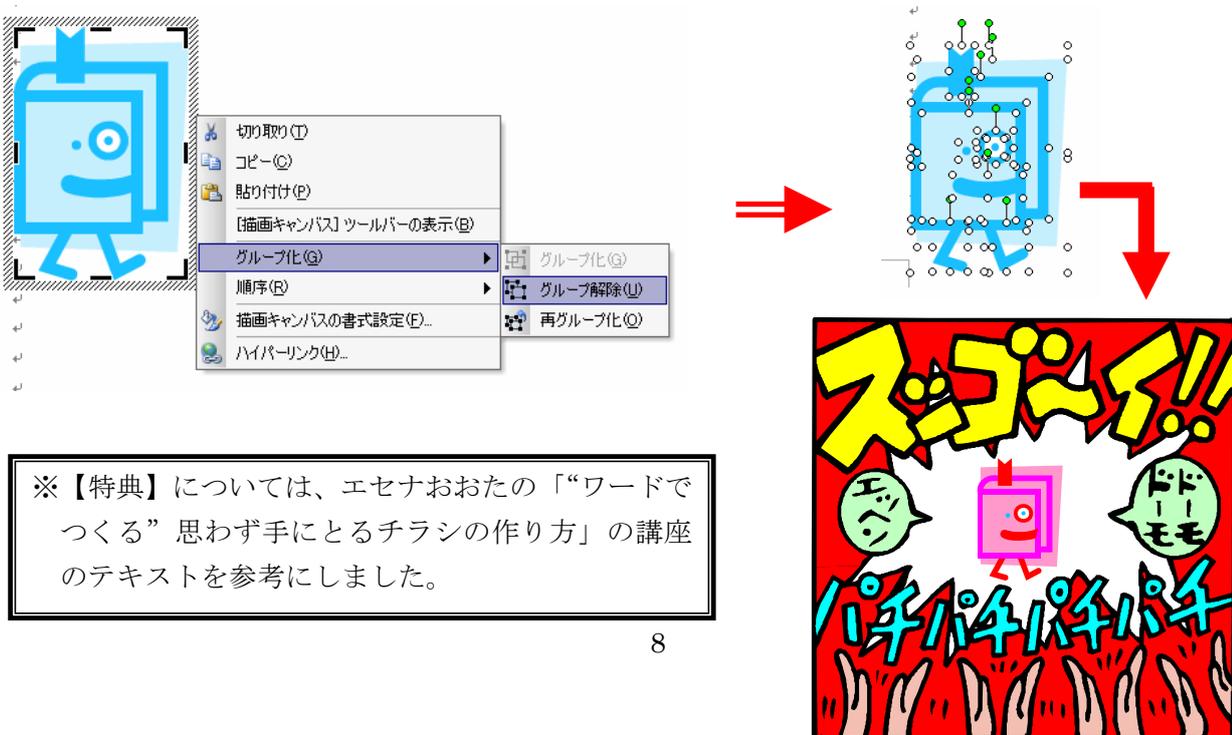
## 【特典2】 オリジナルクリップアートの作り方

☆ 基本は、クリップアートの、グループ化解除→再グループ化

1. クリップアートを右クリック「図の編集」を選択。描画オブジェクトに変換→「はい」でイラストが分解された状態になります。



2. 次にイラストの枠線上で右クリック「グループ化」→「グループ化解除」でイラストがばらばらになります。変更したり、削除したりしたいパーツを一つずつ選択しオリジナルイラストを作成します。



※【特典】については、エセナおたの「“ワードでつくる” 思わず手にとるチラシの作り方」の講座のテキストを参考にしました。